

121.鼠径部ヘルニアにおける臨床学的因子、短期成績および長期成績の検討

研究の概要

鼠径部ヘルニアの手術は年間約14万件が行われており、日本で最も多い外科手術の一つです。鼠径部ヘルニアルは、小児(特に男児)に多いと思われませんが、日本における鼠径部ヘルニア手術症例の9割が15歳以上の成人に対して行われています。女性の割合は全体の1~2割程度です。成人の鼠径部ヘルニア全体で見ると多数が65~80歳の間に手術を受けています。一方、鼠径部ヘルニアの手術方法には「組織縫合法」と「メッシュ法」の二つがあり、大半が「メッシュ法」で行われています。アプローチには「鼠径部切開法」と「腹腔鏡下手術」があります。当院外科において鼠径部ヘルニアに対して手術を行った症例において、臨床病理学的因子、短期成績(手術成績など)および長期成績(再発など)について後ろ向きに検討を行います。

研究の目的と方法

本研究では、2008年4月1日~2022年3月31日に国立病院機構熊本医療センター外科で鼠径部ヘルニアに対して手術を受けた患者さまを対象としています。日常診療で得られたデータ(年齢、性別、検査内容、検査値、最終診断、治療状況、転帰など)を電子カルテから集計いたします。

本研究の参加について

これにより、患者さまに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究で扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。ご自身のデータを本研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございます際は、末尾の問い合わせまでご連絡ください。

調査する内容

本研究は、新たに試料・情報を取得することではなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。研究対象者(患者さま)の個人情報(氏名、住所、電話番号、カルテ番号など)は、記載せず、対応表を作成して管理しますので、個人情報は特定されません。

調査期間

研究期間:2008年4月1日~2024年3月31日(調査対象期間:2008年4月~2022年3月)

研究成果の発表

調査した患者さまのデータは、集団として分析し、学会や学術論文で発表いたします。また、個々の患者さまのデータを発表するときも、個人が特定されることはありません。

研究代表者

国立病院機構熊本医療センター 外科医師 小澄敬祐

当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター 外科医師 小澄敬祐

問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター 外科医師 小澄敬祐

TEL : 096-353-6501